

ハンセン病問題普及啓発に係る令和5年度(2023年度)下半期実績報告、
令和6年度(2024年度)上半期事業経過報告及び下半期事業計画

事業名：ハンセン病問題啓発パネル展

概要

県民がハンセン病問題について考え、正しい知識を得られるよう6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」の時期等にパネル展を開催。

令和6年度(2024年度)事業内容

【熊本県庁地下通路】

熊本県ハンセン病問題普及啓発パネル展 令和6年6月11日～6月14日

【熊本県庁ロビー】

熊本県ハンセン病問題普及啓発パネル展 令和6年6月21日～6月28日
金陽会絵画パネル展と同時展示

【熊本県民交流館パレア】

熊本県ハンセン病問題普及啓発パネル展 令和6年6月6日～6月20日
金陽会絵画パネル展と同時展示

【熊本県庁ロビー】



【熊本県民交流館パレア】



事業名：菊池恵楓園絵画展・絵画パネル展

概要

県民がハンセン病問題について考え、正しい知識を得られるよう6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」の時期等に絵画パネル展を開催。

令和6年度（2024年度）事業内容（予定）

【熊本県立図書館】

金陽会絵画パネル展 令和6年6月15日～6月26日

【熊本県庁ロビー】

金陽会絵画パネル展 令和6年6月21日～6月28日

熊本県ハンセン病問題普及啓発パネル展と同時展示

【熊本県民交流館パレア】

金陽会絵画パネル展示 令和6年6月6日～6月20日

熊本県ハンセン病問題普及啓発パネル展と同時展示

【県立図書館】



【熊本県庁ロビー】



事業名：ふれあい福祉協会補助事業活用事業

令和6年度（2024年度）事業内容

- ・概要：ドキュメンタリー映画上映会及び金陽会絵画作品展を実施
- ・コンセプト：子どもから高齢者まで誰もが親しみやすい文化芸術面を切り口とし、ドキュメンタリー映画上映・監督による講演会を実施。また、熊本市では金陽会絵画作品展を開催。

・日にち：

○映画「風の舞」上映会及び宮崎監督による講演会

・令和6年10月12日（土） 1日2回

市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市民会館）

・令和6年10月25日（金） ホテル大黒屋（八代市）

・令和6年10月26日(土) 御船町カルチャーセンター

○金陽会絵画作品展「『知らない』を観に行こう。Vol.15」

令和6年10月12日(土)～10月14日(月・祝)

市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)

【参考：令和5年度(2023年度)実績】

- ・作品展名：「これまで これから」～宇城市編～国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展
- ・期 間：9月14日(土)～9月30日(土)
9月18日(月・祝)14時～ギャラリートークを実施
- ・場 所：宇城市不知火美術館
- ・来場者数：累計1,221名

事業名：菊池恵楓園訪問事業「菊池恵楓園で学ぶ旅」

概 要

県民が実際に菊池恵楓園を訪れてハンセン病の歴史等に直接触れ、また、入所者の方々の話を聴いて交流を深めることで、ハンセン病に対する正しい理解の普及啓発を図る。小学校5・6年生を中心とした親子コース(7月)と、一般コース(8月)を実施。

令和6年度(2024年度)事業内容

- ・実施日：7月25日 親子コース、8月27日 一般コース
- ・内 容：歴史資料館の見学、園内紹介の動画視聴後、園内見学(監禁室、火葬場跡地、隔離の壁、納骨堂、やすらぎ総合会館)、入所者自治会による講話
- ・定 員：各日80名(令和5年度より各日20名増)
- ・参加者数：
7月25日 62名(小学生27名、中学生8名)
8月27日 81名(中学生1名、高校生5名、大学生1名、教職員26名)

参加者の声(一部抜粋)

- ・親子で意見を交わしながら、考えを深めるというのは、とても良いことだと思った。
- ・実際にこの場所に来ないと分からないことがたくさんあった。頭で理解することと、肌で感じることは違う。

- ・学校の授業でハンセン病について学び、全部知った気でいた。
- ・現地に来て学んだ方がさらにハンセン病を巡る社会の動き、差別や偏見、療養所での生活などを実感することができた。学んだことを担任しているクラスに話し、差別や偏見のないクラスにするために学級経営に活かしていきたい。
- ・映像が分かりやすく、伝わりやすい。SNSを活用してみてもいい。

事業実施による課題等

- ・一般向けその他、小中学生及びその保護者のコースを設定しているため、夏休み期間中に開催しているが、参加者から近年の猛暑による熱中症を懸念する声もあり、園内見学の在り方や開催時期については検討する必要がある。

事業名：県広報媒体等を活用した啓発

令和6年度事業内容

県政広報ラジオ

テマ：菊池恵楓園歴史資料館、菊池恵楓園で学ぶ旅の周知

放送日：7月3日

広報媒体：RKKふれあいくまもと、FMK県庁ダイアリー

県政広報テレビ番組

テマ：ハンセン病問題の普及・啓発

放送日：8月9日

広報媒体：テレビ熊本(TKU)「GO!くまモンナビ」

会報

テマ：らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日、ハンセン病問題啓発パネル展、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会絵画パネル展のお知らせ

掲載月：6月号

広報媒体：熊医会報

事業名：ハンセン病啓発県職員出前講座

令和6年度（2024年度）事業内容

- ・県ホームページへの掲載を実施しているところだが現時点で申込みなし。
市町村、市町村教育委員会等へ再度周知を図っていきたい。

事業名：ハンセン病問題普及啓発リーフレットの作成

概要

ハンセン病問題を広く周知啓発するため、リーフレット「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」を作成し、市町村・公立及び私立高等学校（1年生全員分）等に配布。

令和5年度（2023年度）事業内容

- ・45,000部作成し、令和6年（2024年）3月中旬に学校、市町村等に配付。

令和6年度（2024年度）事業内容（予定）

- ・令和5年度と同様に45,000部作成し、令和7年（2025年）3月中旬に学校、市町村等に配付。

事業名：熊本県新規採用職員研修等での啓発

新規採用職員研修

概要

今年度入庁した新規採用職員に対し、ハンセン病問題について理解を深めていただくため、新規採用職員研修において講話を実施。

令和6年度（2024年度）事業内容

- ・新規採用職員研修（前期研修）において令和6年（2024年）4月2日（火）に実施

健康福祉部新規採用職員研修

概要

健康福祉部新規採用職員に対し、健康福祉行政を推進する上で必要な基礎知識の習得、部所管の各分野の課題や取組、現場での課題や取組等を理解し、県

民中心の視点に立った施策を立案するなど、県の健康福祉行政職員としての資質の向上を図るため、施設見学等を実施。

令和6年度事業内容（予定）

- ・実施日：令和6年（2024年）10月25日（金）
- ・内容：研修の一部で菊池恵楓園歴史資料館を見学

その他、県職員を対象とした特定課題（県政の課題等の中で、全職員が身につけておかなければならない基本的な知識、姿勢等のこと）研修として「ハンセン病問題」を掲示し、各職員が研修を受講。

また、民生委員の研修会テーマにも追加。

事業名：熊本県ハンセン病回復者・家族支援事業

概要

「りんどう相談支援センター」（令和2年4月1日（水）開設）において、回復者及び家族の相談対応と生活支援を行っている。また、研修や講演等を実施し、正しい知識の普及を行うとともに、回復者の講演活動など、普及啓発活動への支援も行っている。

- ・設置場所：一般社団法人熊本県社会福祉士会事務所内
（熊本市東区健軍本町1-22）
- ・相談体制：社会福祉士常時2名で対応（平日 午前9時～午後4時）

【主な相談内容】

家族補償制度について様式の取得方法や書類の記入の仕方、療養所への情報開示方法

年金や福祉制度等

令和5年度（2023年度）事業実施内容（3月以降）

相談件数（4～3月末）：169件、

うち家族補償関係27件、実利用者数114人

相談以外の活動

- ・ハンセン病ドキュメンタリー映画「NAGASHIMA “かくり” の証言～」上映会及び宮崎賢監督による講演

（R6.2.29 水俣市 参加者57名、R6.3.1 熊本市 参加者109名）

りんどう相談支援センター相談実績

りんどう相談業務月別実績一覧

【令和5年度】

月	相談件数						全体実利用者数	
	総数	個別相談		個別相談 連携	啓発 活動	啓発活動 連携	うち家族・ 回復者	
		うち家族補 償関係						
4月	35	15	(9)	6	8	6	14	5
5月	12	6	(4)	4	1	1	7	4
6月	7	4	0	3	0	0	6	6
7月	1	1	0	0	0	0	1	1
8月	4	3	(3)	0	1	0	3	2
9月	15	0	0	0	6	9	9	0
10月	18	6	(1)	0	3	9	15	1
11月	28	13	(6)	4	5	6	20	4
12月	11	3	0	0	1	7	8	0
1月	8	5	(1)	0	3	0	7	1
2月	22	13	(1)	0	4	5	18	0
3月	8	5	(2)	0	2	1	6	3
計	169	74	(27)	17	34	44	114	27

【令和6年度】

月	相談件数						全体実利用者数	
	総数	個別相談		個別相談 連携	啓発 活動	啓発活動 連携	うち家族・ 回復者	
		うち家族補 償関係						
4月	7	2	0	0	5	0	6	1
5月	6	5	1	0	0	1	4	3
6月	8	8	0	0	0	0	5	1
7月	4	2	0	0	0	2	4	0
8月	7	1	0	0	0	6	6	1
9月	9	6	0	0	0	3	7	0
10月								
11月								
12月								
1月								
2月								
3月								
計	41	24	1	0	5	12	32	6

【補足】

個別相談：個人や行政職員、団体職員、教職員等、個々で相談があった数

啓発活動：自治体等からの啓発に関する相談件数

個別相談連携：個別相談に関して療養所や自治体、関係機関に問合せを行った件数

啓発活動連携：研修依頼に対し、外部講師の方に繋いだ件数。自治体、関係機関等に啓発（研修）に関する案内等を行った件数

令和6年度（2024年度）事業実施内容

相談件数（9月末時点）：41件、

うち家族補償関係1件、実利用者数32人

相談以外の活動

- ・第18回ハンセン病市民学会（R6.5.10～11）相談員4名参加
- ・「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」式典オンライン参加（R6.6.20）
- ・「菊池恵楓園で学ぶ旅」（R6.7.25、R6.8.27）
- ・ひまわりの会との意見交換会（R6.8.23）
- ・ハンセン病医学夏期大学講座オンライン受講（R6.8.20～21）
- ・沖縄愛楽園交流館、教員向け講座オンライン受講（R6.8.23）

- ・ひまわりの会 中会長のDVDより聞き書き作成
- ・ハンセン病ドキュメンタリー映画「風の舞」上映会、宮崎監督講演会
(R6.10.12 市民会館、25 ホテル大黒屋(八代市)、
26 御船町カルチャーセンター)
- ・菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展 (R6.10.12~14 市民会館)

【令和6年度熊本県ハンセン病問題啓発フォーラム

～ハンセン病療養所の将来と未来につなぐ講演会】

概要

全国の療養所で最も多くの見学者を受け入れ、地域で療養所の世界遺産登録を目指す岡山県の長島愛生園歴史資料館学芸員による講演、本県の学校での取り組み紹介として、山鹿市立菊鹿中学校及び関係者によるハンセン病学習の発表を行う。

また、回復者等とのトークセッションを通じて、ハンセン病問題について考え、理解を深めていただくことにより、退所者が安心して生活できる社会の構築を目指す。一般研修として県民を対象に実施。

- ・実施日：令和6年(2024年)11月16日(土)
- ・実施場所：山鹿市民交流センター
- ・定員：350名
- ・内容：

第1部「私たちにできること～ハンセン病問題の学習を通して～」
(発表：山鹿市立菊鹿中学校生徒会、チーム菊鹿中学校)

「記憶をつなぐ～長島愛生園(岡山)の取り組み～」
(講師：長島愛生園歴史館 学芸員 田村朋久 氏)

第2部 トークセッション「経験を未来へ伝える」

登壇者：中 修一 氏(ひまわりの会会長)

田村朋久 氏(長島愛生園歴史館 学芸員)

コーディネーター：

西 章男 氏(りんどう相談支援センター 副センター長)

【熊本県ハンセン病医療・福祉研修会】

概要

退所者が、園外の医療・介護施設をより利用しやすくするための環境を構築するため、医療・福祉施設の従事者等を対象に、菊池恵楓園内施設見学、園職員の講話等を実施。

- ・実施日：令和7年(2025年)1月頃(予定)

- ・実施場所等：菊池恵楓園（対面型研修）
- ・参加対象者：医師、看護師、介護士、地域包括支援センター職員、病院連携室職員、訪問看護ステーション職員、訪問介護職員等介護事業所職員、医療・看護学生等
- ・定員や内容については、菊池恵楓園と今後協議予定

熊本県出身の療養所入所者の方への事業

1. ふるさと訪問事業（里帰り事業）

概要

熊本県出身の入所者の方を県内各地にご案内する。

令和6年度（2024年度）事業内容

参加療養所：国立療養所菊池恵楓園

日 時：令和6年（2024年）11月12日（火） 日帰り

行 先：阿蘇方面

参加者数：入所者8名（他付添職員等6名）

参加療養所：国立療養所星塚敬愛園

日 時：令和6年10月29日（火）～10月30日（水）1泊2日

行 先：玉名、山鹿方面

参加者数：入所者1名（他付添職員等4名）

12月に国立駿河療養所へ職員が訪問する予定であったが、入所者の方が9月にお亡くなりになられたため中止となった。

2. 熊本ふるさと便の送付

概要

県内外のハンセン病療養所の入所者の方を対象に、熊本県の特産品を12月に送付する。

令和6年度（2024年度）事業内容（予定）

- ・例年どおり12月頃に送付予定

3. 県外療養所入所者の方への熊本日日新聞の配布

令和6年度（2024年度）事業内容

- ・星塚敬愛園（県人会）へ配布

令和5年度（2023年度） 熊本県ハンセン病問題相談・支援センター
事業実施報告書目次
（期間：2023年4月1日～2024年3月31日）

事業の項目

（1）相談支援事業

電話相談

訪問相談

相談会

ひまわりの会活動等支援

家族等交流会

その他

（2）啓発事業

研修会実施運営

講師派遣

教育機関との連携

回復者等講演会への同行

その他

（3）人材育成事業

相談員の研修会講師派遣

りんどう相談員養成研修の実施

ハンセン病療養施設訪問

（4）その他

他のハンセン病問題支援機関との連携

コロナ対策

その他

令和5年度（2023年度） 熊本県ハンセン病問題相談・支援センター事業実施 報告書

（期間：2023年4月1日～2024年3月31日）

事業の項目

（1）相談支援事業

電話、面談、訪問、ホームページ（電子メール）、郵便、当事者会（茶話会）などによりハンセン病家族補償金請求、各種公的手続き等に対する相談・支援を実施した。ハンセン病問題相談・支援センター利用者延べ人数は、169人であった。

電話相談

センター設置の電話による相談。

月曜～金曜（9時～16時）祭日除き対応。

訪問相談

自宅もしくは秘密保持の観点から相談者と相談場所を調整して実施。原則月曜～金曜（9時～16時）であるが、相談者と調整の上柔軟に対応を行った。

相談会

2月13日、熊本市より依頼を受け、回復者・家族相談会をひまわりの会・弁護士会と連携し実施した。

ひまわりの会活動等支援

6月22日「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」式典及び「厚生労働省令和5年度ハンセン病問題対策協議会」（オンライン視聴支援）

ひまわりの会会長中修一氏がオンラインで参加された際に接続等の支援を行った。

10月27日、2月6日「ひまわりの会と熊本市との意見交換会」へ参加し、連携・情報共有を行った。



2023年6月22日

「らい予防法による被害者の名誉回復及び
追悼の日」式典

りんどうにてオンライン視聴

(参加者)

・ひまわりの会 会長 中修一氏

・熊本県健康づくり推進課

・(一社)熊本県社会福祉士会

会長 深谷誠了氏

・りんどう相談支援センター 相談員

- ・ひまわりの会会員で、地域で暮らす退所者の方を訪問

訪問日：6月30日(相談員2名訪問)

訪問内容：退所者の方のご自宅を訪問。奥様も同席、近況やこれまでの生活等について話を伺った。コロナの影響で久しぶりの訪問であったが「病気のことを知っている相談員には隠し事をせず何でも話せて気持ちがすっとしました」との話も伺えた。

家族等交流会

今年度茶話会は5月26日、熊本市内の公民館にて実施。

当事者やご家族7名、県職員3名、相談員3名が参加し、近況を語り合った。

その他

家族補償金の受給申請について

本年度相談総数169件のうち27件が家族補償金関連の相談であった。

家族には知られたくないし、知らせるつもりもないと言われた相談者の支援の際には、資料のやり取り、連絡調整に関して細心の注意を必要とした。相談件数自体は減少している。

相談統計資料参照

・第8回 熊本県ハンセン病医療・福祉研修会

開催日：2024年1月24日（水）

会場：国立療養所菊池恵楓園 歴史資料館2階講話室他

対象者：医療、福祉業務従事者および医療福祉に関心のある方

参加者：38名

内容：講話 「ハンセン病、菊池恵楓園について」

講師：菊池池恵楓園園長 境 恵祐 氏

講話 「生活面のサポートについて」

講師：菊池恵楓園 福祉課 村山 智子 氏

研修 歴史資料館見学

研修 菊池恵楓園内見学（納骨堂、火葬場跡地等）

体験講話

「退所者の現状と課題～地域で暮らす中で感じること」

講師：ひまわりの会 会長 中 修一 氏

・ドキュメンタリー映画「NAGASHIMA～“かくり”の証言」上映会

実施日： 2024年2月29日（木）

2024年3月1日（金）

会場： 水俣市南部もやい直しセンターおれんじ館 集会室

熊本市国際交流会館 6・7階ホール

参加： 57名

109名

内容：ハンセン病ドキュメンタリー映画「NAGASHIMA ～ “かくり”の証言～」を熊本市と水俣市2カ所で上映し、上映終了後と宮崎賢監督の講演を通して、ハンセン病問題と人権について考える機会とする。県民の方を対象に実施。



・講師派遣（オンラインによる講演も含む）

西合志中央小学校 校内研修

実施日：2023年6月9日（金）

会場：西合志中央小学校体育館

参加者：5・6年児童及び教職員

（約310名児童約250名教職員約60名）

内容：「私たちのハンセン病問題」を演題に、児童へ問いかけをしながら講演を実施。ハンセン病に対する偏見・差別を解消するため、正しい知識の普及啓発を図った。

南小国町役場職員向け研修

実施日：2023年11月14日（火）、27日（月）

会場：南小国町役場内きよらホール

参加者：役場職員（約90名）

内容：2003年ホテル宿泊拒否事件から20年を迎えるにあたり、改めてハンセン病問題を学ぶ機会として「ハンセン病の歴史について - 熊本県内の主な出来事を交えて - 」と「私たちのハンセン病問題」を演題に、南小国町役場職員全員を対象とする講演を実施。

南小国町きよら人権デー講話

実施日：2023年12月1日（日）

会場：南小国町役場内きよらホール

参加者：南小国町在住の小学生～高校生及びその家族等（約100名）

内容：「私たちのハンセン病問題」を演題に、児童・生徒へ問いかけをしながら講演を実施。ハンセン病に対する偏見・差別を解消するため、正しい知識の普及啓発を図った。

令和5年度人権推進委員人権問題特別対策講習会（熊本地方法務局）

実施日：2024年1月29日（月）

会場：熊本第2庁舎共用第2会議室

参加者：人権擁護委員約10名

内容：「私たち」のハンセン病問題を演題に、「ホテル宿泊拒否事件の資料分析WG報告書」を引用し、隔離政策（国によって公認され続けた）に基づく嫌悪や排除である歴史的事実と適切な治療がされなかった結果として生じた後遺症であるという事実をもと構成された社会による差別・偏見の構造と、「私たちにできること」として、何気ない言葉や態度が人と傷つけることなどワークを交えて実施。

菊池郡市教頭会教育講演会

実施日：2024年2月16日（金）

会場：泗水公民館

参加者：菊池郡市小中学校教頭約50人

内容：「私たち」のハンセン病問題を演題に、「ホテル宿泊拒否事件の資料分析WG報告書」を引用し、隔離政策（国によって公認され続けた）に基づく嫌悪や排除である歴史的事実と適切な治療がされなかった結果として生じた後遺症であるという事実をもと構成された社会による差別・偏見の構造と、「私たちにできること」として、何気ない言葉や態度が人と傷つけることなどワークを交えて実施。

熊本市役所ハンセン病問題啓発資料（動画）提供

熊本市役所健康福祉政策課に市役所職員啓発映像資料「私たちのハンセン病問題」を作成し提供。3/25～市役所内で視聴（研修）開始。

（3）人材育成事業

相談員の研修会講師派遣

前項の講師派遣参照。

りんどう相談員養成研修の実施

りんどう相談員は日常業務として、りんどう文庫のハンセン病関連の書籍やDVD、インターネットのハンセン病関連動画やホームページを見て自学自習を行っている。また、常に業務日誌や相談票にて対応ケースについて共有し、対応できるようにしている。

- ・「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」式典（オンライン）
- ・ハンセン病市民学会 第17回全国交流集会
（鹿児島県鹿屋市）相談員3名参加
- ・沖縄愛楽園教員向け講座 相談員1名参加（オンライン）
- ・第44回ハンセン病医学夏期大学講座 相談員2名参加（オンライン）
- ・菊池恵楓園で学ぶ旅 相談員2名参加
- ・菊池恵楓園退所者の会ひまわりの会と熊本市との意見交換会1名参加
- ・菊池恵楓園に再入所された方を訪問 相談員1名訪問
- ・人権フォーラム2024 合志市 相談員1名参加
- ・菊池恵楓園の将来を考える会シンポジウム
「市民が支えるハンセン病療養所へ」相談員2名参加
- ・映画「かづ彖的」視聴 相談員1名参加

<ハンセン病療養施設訪問>

・長島愛生園訪問

実施日：2024年2月22日（木）、3月9日（土）

参加者：りんどう相談員各1名

内 容：長島愛生園を訪問し歴史館を見学した。学芸員による案内と説明を受け、敷地内を散策。啓発活動についても学習した。



・栗生楽泉園訪問

実施日：2024年3月10日（日）

参加者：相談員1名

内容：栗生楽泉園を訪問し歴史館を見学した。学芸員による案内と説明を受け、敷地内を散策。啓発活動についても学習した。

（4）その他

他のハンセン病問題支援機関との連携

ふれあい福祉協会、回復者支援センター、ゆうな協会、菊池恵楓園はじめ各地の療養所とは資料提供や問い合わせ等で連携した。

コロナウイルス等感染症対策

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、マスク着用・消毒液設置・エアコンによる換気を行った。

その他

- ・厚労省から退所者へ初夏に郵送される現況届案内に、りんどうのチラシを同封した。
- ・小学校に講師で出向いた際、県作成のリーフレット・りんどう相談支援センターのチラシ・厚生労働省作成の家族補償金のチラシを参加児童・教職員に配布した。
- ・自治体や法務局に講師で出向いた際、県作成のリーフレット・りんどう相談支援センターのチラシ・厚生労働省作成の家族補償金のチラシを配布。また、開催予定のイベントのチラシを配布し、広く参加を呼び掛けた。

りんどう相談支援センター相談件数

年度	月	相談件数					全体実利用者数		年度	月	相談件数					全体実利用者数	
		総数	個別相談	個別相談連携	啓発活動	啓発活動連携	うち家族・回復者	総数			個別相談	個別相談連携	啓発活動	啓発活動連携	うち家族・回復者		
2020年度	4月	23	23				17	9	2021年度	4月	40	30	10	0	0	13	8
	5月	15	15				9	8		5月	20	20	0	0	0	11	8
	6月	32	32				20	15		6月	28	28	0	0	0	22	12
	7月	24	24				18	11		7月	22	17	5	0	0	15	12
	8月	21	21				15	7		8月	19	14	5	0	0	14	8
	9月	12	12				7	4		9月	16	15	1	0	0	14	11
	10月	30	30				15	10		10月	16	14	2	0	0	13	4
	11月	31	31				19	11		11月	19	18	1	0	0	10	4
	12月	23	23				11	7		12月	25	23	2	0	0	22	7
	1月	18	18				13	8		1月	27	19	3	0	5	13	10
	2月	13	13				11	4		2月	25	20	0	0	5	17	4
	3月	20	20				12	8		3月	21	15	6	0	0	12	5
		262	262	0	0	0	167	102			278	233	35	0	10	176	93

2022年度	4月	48	14	7	5	22	25	14	2023年度	4月	35	15	6	8	6	14	5
	5月	53	15	7	2	29	34	9		5月	12	6	4	1	1	7	4
	6月	113	29	5	0	79	93	12		6月	7	4	3	0	0	6	6
	7月	46	14	1	0	31	41	9		7月	1	1	0	0	0	1	1
	8月	47	11	8	6	22	26	5		8月	4	3	0	1	0	3	2
	9月	40	16	18	2	4	20	11		9月	15	0	0	6	9	9	0
	10月	24	13	11	0	0	14	8		10月	18	6	0	3	9	15	1
	11月	10	5	2	3	0	6	3		11月	28	13	4	5	6	20	4
	12月	17	13	0	3	1	9	4		12月	11	3	0	1	7	8	0
	1月	5	4	0	0	1	3	2		1月	8	5	0	3	0	7	1
	2月	2	2	0	0	0	2	2		2月	22	13	0	4	5	18	0
	3月	5	2	0	2	1	4	2		3月	8	5	0	2	1	6	3
		410	138	59	23	190	277	81			169	74	17	34	44	114	27

自治体等挨拶回りの影響で上半期数値像

2024年 りんどう相談支援センターの活動

< 上半期の活動 >

- ・ 5月10日、11日、ハンセン病市民学会 in 北海道
会場参加1名、オンライン参加4名
 - ・ 6月20日、「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」式典オンライン視聴
 - ・ 7月25日・8月27日、菊池恵楓園で学ぶ旅
 - ・ 8月20 21日、ハンセン病医学夏期大学講座オンライン受講
 - ・ 8月23日、ひまわりの会と熊本市の会議
 - ・ 8月23日、沖縄愛楽園交流館 教員向け講座オンライン受講
- ・ 中修一氏、DVDより聞き書き作成（原案）

< 今後の予定 >

- ・ 10月12日（土）13:30～、18:00～ 熊本市民会館
ハンセン病ドキュメンタリー映画「風の舞」上映会＋宮崎信恵監督講演
- ・ 10月12日（土）～14日（月） 熊本市民会館
菊池恵楓園絵画クラブ金陽会絵画展
- ・ 10月25日（金）18:00～ 八代市・ホテル大黒屋
- ・ 10月26日（土）10:00～ 御船町カルチャーセンター
ハンセン病ドキュメンタリー映画「風の舞」上映会＋宮崎信恵監督講演
- ・ 11月16日（土）13:30～ 山鹿市民交流センターホール
「ハンセン病療養所の将来と未来につなぐ講演会」
長島愛生園歴史館・田村朋久氏講演、菊鹿中学校発表、トークセッション
- ・ 2025年1月 ハンセン病 医療・福祉研修会（平日・菊池恵楓園）

りんどう相談支援センター 相談支援の概要

1. 退所者給与金関係の相談内容

山口県在住の地域で生活する回復者の方より電話相談。
厚労省からの郵便物受取と退所者給与金関係の郵便物の投函を依頼したい。現在まで知人の菊池恵楓園入所者に依頼し、厚労省からの郵便物の受け取りや郵便の投函をしてもらっている。自分が回復者であることは、子には一切言っていない。そのため、厚労省の郵便物は自宅に届かないようにしている。今後は、知人も高齢で体も不自由になり頼めない。りんどうに依頼したいとの相談を3月に電話を頂いていた。その件について、夏前にご本人に電話して確認を行った。りんどうより、出向いてお話をお聞きすることも可能とお話する。8月がご本人のお母様の命日であり、7～8月に熊本に里帰りした際に、りんどう職員と会えればとの事。本人より里帰りの時期が決まってから、りんどうに電話がある予定だったがその後は、連絡なし。本人は子の家族と2世帯家族で住んでいるが、自分が回復者だとは話していない。知られたくないとの意向が強く、電話を掛ける際は、電話口でご本人である事を確認して欲しいとのことであった。

2. 家族補償金申請の相談内容

健康づくり推進課より紹介あり。鹿児島県在住の地域で生活する回復者の方からの電話相談。菊池恵楓園からの退所者。「子は大阪、鹿児島、北九州で暮らしている。嫁や孫に、自身が退所者であることを知られる訳にはいかない。妹は、近所の人から唾を吐きかけられたり、「あの家の前を通るときは口をおさえて通れ」と言われたりして大変な思いをしてきた。兄も恵楓園に入所していた。自身には姉妹がいるが、まだ、兄弟姉妹には家族補償金申請のことは言えない。まず、自身の子どもたちからと思っている。嫁や孫に知られずに、子が家族補償金の申請ができるか？どんな書類が必要になるのか知りたい」とのこと。申請時に、厚労省が確認の電話をする際の連絡先を、申請する子ではなく、ご本人(母)にすることも可能と伝えた。関連資料を郵送した。

3. その他

山都町教育課から県外の回復者家族に講演依頼したいとの事で、回復者家族に連絡し、連携を行った。

Denkikan でハンセン病ドキュメンタリ映画「かづ糸的」上映にあたり、Denkikan にりんどうのチラシを置いてもらう。

県内在住の回復者家族より連絡があり、講演会で配布する熊本県作成のハンセン病リーフレット200部、また熊本地方務局より熊本県作成のリーフレットを希望され50

部届ける。

ハンセン病問題普及啓発に係る令和5年度(2023年度)実績報告
及び令和6年度(2024年度)事業計画

事業名：教職員のための菊池恵楓園現地研修

前回報告済み

令和5年度(2023年度)事業実施内容

- ・概要：菊池恵楓園での現地研修を通して、ハンセン病回復者及びその家族の人権についての基本的認識を深め、人権教育の推進に向けた資質の向上及び実践的な指導力を高めることを目的に実施。
- ・実施日：令和5年(2023年)8月17日(木)
- ・対象者：令和5年度(2023年度)該当校63校から各1人
- ・内容： 菊池恵楓園歴史資料館見学
講話 前熊本県ハンセン病問題相談・支援センター職員
熊本県社会福祉士会 紫藤 千子 認定社会福祉士
園内見学(雷雨のため変更し、歴史資料館見学及び班別協議)

令和6年度(2024年度)事業計画

実施済み

事業名：菊池恵楓園研修

- ・実施日：令和6年(2024年)7月31日(水)
- ・対象者：令和6年度(2024年度)該当校107校から各1人
- ・内容： 講話 講師 太田 明 副会長
菊池恵楓園歴史資料館見学
フィールドワーク

令和6年度(2024年度)から令和9年度(2027年度)4箇年計画で実施予定。以下は、それぞれの年度の参加予定数。

令和6年度(2024年度)107校から各1人

令和7年度(2025年度)107校から各1人

令和8年度(2026年度)108校から各1人

令和9年度(2027年度)108校から各1人

小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の計430校から各1人参加とする。なお、これまで菊池恵楓園を訪問していない教職員を優先とする。

<参加者の感想から>

差別や偏見を向けられた方の苦しみを改めて感じ、今もなおその差別に苦しめられているという現状を聞き、心が痛くなりました。この歴史を繰り返さないために子どもたちにしっかり伝えていくことが私たち教員の役目だと感じました。(市町村立小学校教諭)

改めて正しく知ることの大切さを感じました。法律が改正されても、一度根付いた社会の目(社会の構造)は簡単には変わらないことに恐ろしさを抱きました。だからこそ、目の前の子どもたちと人権学習を通して、差別の現実に学び、差別をなくしていこうとする考え方を育てていきたいと思いました。(市町村立中学校教諭)

問題を風化させないためにも学校に課された役割は大きいことを改めて感じました。差別を受けてきた方々の苦しみ、そして今後このような差別を繰り返さないために、学校が行うべきことをしっかりと考え、取り組む必要性を痛感しました。(県立高校教諭)

取組：ハンセン病回復者等の人権に関する校内研修の推進

令和5年度(2023年度)取組内容

- ・概要:人権の意義や内容・重要性及び「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に係る教職員の基本的認識を深めるとともに、実践的な指導力を高める研修の推進に向けた資料の提供及び指導主事の派遣を通して校内研修の推進を図る。

デジタル研修資料及び映像資料の活用の推進(R6.4.1時点のR5年度年間視聴回数)

「ハンセン病回復者及びその家族の人権」(194回)

「新型コロナウイルス感染症とハンセン病をめぐる人権問題について」(119回)

KABハンセン病問題関連映像(401回)

TKU「隔離の壁を越えた白球～菊池恵楓園 野球チーム秘史～」(令和5年放送、約30分)を2月に県教育委員会HPに公開し、県立学校、市町村立学校に周知。(前編後編合計142回)

熊本市教育委員会主催「熊本エデュケーションウィーク」に、デジタル研修資料「新型コロナウイルス感染症とハンセン病をめぐる人権問題について」を提供。

校内研修の内容例(R5年度人権教育推進状況調査)

- ・夏季休業中に、DVD「壁を越えて」及び本課作成デジタル研修資料を視聴後、菊池恵楓園歴史資料館を見学する研修を実施。
- ・一般社団法人金陽会の蔵座江美理事を講師として招聘し、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」についての研修を実施。

リーフレット「ハンセン病を正しく理解しましょう」(県作成)を周知。

パンフレット「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省作成) 啓発動画「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」等を周知。

パンフレット「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省作成)活用報告アンケート協力についても通知。

市町村教育委員会主催研修及び県立学校の校内研修への指導主事派遣による支援

「熊本県人権子ども集会」体験・活動報告校として、合志楓の森小学校・合志楓の森中学校が発表

令和5年10月24日(火)から令和6年1月31日(水)まで配信。

全ての学校で視聴(60,000人を超える児童生徒、教職員が視聴)。各学年の人権学習や全学年が参加する人権集会で視聴された。

令和6年度(2024年度)事業計画

デジタル研修資料及び映像資料の配信

リーフレット「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」(県作成)の周知
パンフレット「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省作成)、啓発動画「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」等の周知。

市町村教育委員会主催研修及び県立学校の校内研修への指導主事派遣による支援

「熊本県人権子ども集会(体験・活動報告校：合志楓の森小学校・合志楓の森中学校)」映像資料をDVDとして、各教育事務所に配布

菊池恵楓園ガイドブック「歩いて学ぶハンセン病問題」を各種研修会で周知。

取組：学校教育及び社会教育における人権教育に関する研修会

令和5年度(2023年度)取組内容

前回報告済み

- ・概要：教育関係者を対象に「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に関する理解と認識を深めることを目的に実施。

校長及び県立学校人権教育主任対象研修

- ・公立学校(熊本市を除く)の校長及び県立学校の人権教育主任を対象に説明
菊池恵楓園歴史資料館での研修や人権学習での活用を依頼

教職員研修

- ・副校長、教頭、新任教頭・事務長及び人権教育主任を対象に説明
- ・経験者研修(教諭：初任、5年、10年、事務職員：初任、4年目、7年目)で説明
- ・玉名管内教頭対象「人権教育フォーラム」において、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」について研修を実施

「人権教育フォーラム」(県内10箇所)において、「令和5年度熊本県ハンセン病問題啓発研修会」(11/25(土)開催)のチラシを全学校に配布・周知

社会教育関係者研修

- ・市町村行政担当者、社会教育主事、青少年施設職員及び地域人権教育指導員を対象に説明

その他

- ・文部科学省訪問時に、担当者に熊本県教育委員会の取組について説明

令和6年度(2024年度)事業計画

校長対象研修 実施済み

実施日：令和6年(2024年)6月11日(火)

対象者：県内の小・中・義務教育学校・県立学校の校長

講演には県立学校人権教育主任も参加

講師に、学校法人盈進学園 盈進中学高等学校 延和聡 校長を招聘し、

「児童・生徒と学び、児童・生徒から学ぶ～『平和・ひと・環境を大切にする学び舎』の学校づくり～」と題して講演

< 参加者の感想から >

先生の言葉一つ一つが心に響きました。
中でも、これからの学校経営に生かしたい言葉、職員に伝えたい言葉が多くありました。
「正しく知って正しく行動する」
この一言が全てだと思います。
また「共に考える授業 生徒から学ぶ」
言葉は簡単ですが、自分自身に置き換えたときに、できていない自分に気付かされます。
だからこそ、研修を受け、自分の言動を振り返り、よりよい自分をめざし、行動することをこれからも積み重ねる必要があると実感しています。ありがとうございました。（小学校長）

延校長先生のリーダーシップと教育への熱い思いを感じました。すべての生徒のことを思い、すべての生徒が大切にされる学校づくりの具体的な実践を聞くことができ大変勉強になりました。生徒が居心地がよいと感じる「土壌」、人権尊重の「土壌」を根底に据えた学校づくりをしていきたいと思います。（中学校長）

「自分で考え、行動できる生徒の育成」、「正しいかどうかを判断でき、差別を見抜く力の育成」が大切であり、豊かな言語力や平和、人権を大切にする学校の土壌が必要不可欠であると理解できました。私は、生徒たちに正しい知識を身に付けさせることで差別はなくなると考えていましたが、正しい知識だけではなく正しく行動できることが肝心である痛感させられました。（県立学校人権教育主任「講演のみ参加」）

教職員研修

- ・人権教育主任を対象に説明
- ・経験者研修（教諭：初任、5年、10年、事務職員：初任、4年目、7年目）
で説明

市町村教育委員会主催研修支援

- ・副校長、教頭、主幹教諭を対象にした研修で説明

社会教育関係者研修

- ・市町村行政担当者、社会教育主事、青少年施設職員及び地域人権教育指導員
を対象に説明

事業名：人権啓発Web講座

【事業概要】

人権課題をテーマとした講話動画の配信（全24講座）

ハンセン病回復者とその家族の人権、感染症をめぐる人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、部落差別（同和問題）、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、災害と人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・自認に関する人権、ハラスメント、SDGsと人権、DV防止・デートDV

「ハンセン病回復者及びその家族の人権」関連

菊池恵楓園退所者 ひまわりの会会長 : 中 修一さん

熊本大学名誉教授、くまもと南部広域病院理事長 : 小野 友道さん

令和5年度（2023年度）事業実績

動画総視聴数：9,212回（全22講座）

うち、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」をテーマとした

動画視聴数：433回

個別研修にも利用できること、県実施の各種研修や啓発イベントにおけるアンケート調査を踏まえたテーマの講座を作成していることが利用実績の多さにつながっていると考えられる。

令和6年度（2024年度）事業計画

期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

内容：人権課題をテーマとした講話やインタビューの動画（全24講座）

「外国人の人権」及び「SDGsと人権」の動画を追加

令和6年度（2024年度）事業実績（R6.9.15現在）

動画総視聴数：4,702回（全22講座）

事業名：研修支援（登録講師派遣）事業

【事業概要】

人権同和問題に関する登録講師を派遣（全19テーマ）

ハンセン病回復者及びその家族の人権、感染症をめぐる人権、女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、部落差別（同和問題）、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、犯罪被害者等の人権、災害と人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント など

「ハンセン病回復者及びその家族の人権」関連

菊池恵楓園退所者 ひまわりの会会長 : 中 修一さん

熊本大学名誉教授、くまもと南部広域病院理事長：小野 友道さん

令和5年度（2023年度）事業実績

派遣回数：86回 受講者数：10,487人

うち、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に関するもの

派遣回数：7回 受講者数：1,606人

令和6年度（2024年度）事業計画

内容：各人権課題をテーマとした講演の実施

「外国人の人権」及び「水俣病をめぐる人権」の講師を追加

令和6年度（2024年度）事業実績（R6.9.15現在受付分）

派遣回数：65回 受講者数：10,940人

うち、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」に関するもの

派遣回数：5回 受講者数：742人

- ・阿蘇中央高校主催 人権研修会
- ・合志市立楓の森中学校主催 総合的学習
- ・合志市立西合志南中学校主催 人権学習講話
- ・南阿蘇村立南阿蘇中学校主催 人権学習講話
- ・熊本県立八代東高等学校 人権教育講演会

事業名：人権啓発パネル展

【事業概要】

人権同和問題に関する啓発パネルの展示

「熊本県人権教育・啓発基本計画」に掲げる重要課題等

ハンセン病回復者及びその家族の人権、感染症・難病等をめぐる人権、女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、部落差別(同和問題)、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、犯罪被害者等の人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント など

令和5年度(2023年度)事業実績

- ・県庁新館地下通路(2期)
- ・県庁新館ロビー
- ・県庁新館地下通路
- ・県立図書館
- ・県立総合体育館「熊本ヴォルターズ“人権マッチ”」
- ・熊本城ホール「熊本県人権フェスティバル」

令和6年度(2024年度)事業計画

各人権課題をテーマとしたパネルの掲示

令和6年度(2024年度)事業実績(R6.9.15現在 予定含む)

- ・県庁新館地下通路
期間：令和6年8月16日～8月30日、11月14日～12月10日
- ・県立図書館
期間：令和6年12月12日～12月26日
- ・県立総合体育館「熊本ヴォルターズ“人権マッチ”」
実施日：令和6年11月3日(日)
- ・熊本テルサ「熊本県人権フェスティバル」
実施日：令和6年11月30日(土)

事業名：人権啓発映画上映会（ランチタイム上映会）

【事業概要】

人権同和問題に関する啓発映画の上映（毎週月曜日から金曜日）

「熊本県人権教育・啓発基本計画」に掲げる重要課題等

ハンセン病回復者及びその家族の人権、感染症・難病等をめぐる人権、女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、部落差別(同和問題)、外国人の人権、水俣病をめぐる人権、犯罪被害者等の人権、インターネットによる人権侵害、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント など

令和5年度（2023年度）事業実績

《月ごとのテーマ（人権課題）》

4月	女性の人権
5月	水俣病をめぐる人権
6月	ハンセン病回復者及びその家族の人権 ハンセン病を正しく理解する週間
7月	性的指向・性自認に関する人権
8月	人権全般（戦争と平和、命の大切さ等）、企業と人権
9月	高齢者の人権
10月	外国人の人権
11月	子どもの人権、犯罪被害者等の人権
12月	感染症・難病等をめぐる人権 等 12/1 世界エイズデー
1月	インターネットによる人権侵害
2月	障がい者の人権
3月	災害と人権、人権全般

令和6年度（2024年度）事業計画

各人権課題をテーマとした啓発映画の上映

月ごとのテーマは令和5年度と同様の予定

『人権教育・啓発に関する取組課題に係る調査研究 有識者検討会報告書』(令和6年2月)

目次

目的及び実施体制	1
1 調査研究の目的	3
2 調査研究の実施体制(検討会の設置)	3
人権教育・啓発に関する経緯と現状	5
1 人権教育・啓発について	7
2 人権教育に関する施策について	8
3 人権啓発に関する施策について	10
4 人権に関する国際的潮流の動向について	15
今後の人権教育・啓発の基本的な在り方	19
1 基本とすべき考え方	21
2 人権教育・啓発の推進のために採るべき方策	27
基本計画の見直しに関する提言	29
1 基本計画の見直しに当たっての観点について	31
2 基本計画における各人権課題について	36
3 基本計画の見直しについて	40
4 おわりに	41
参考資料	43
資料1 令和4年度に実施された人権啓発に関する施策	45
資料2 人権啓発に係る年表	57

IV 2 基本計画における各人権課題について

~(3) 略

(4) 基本計画見直しの際に個別に検討すべき人権課題

今後、基本計画において個別の人権課題として何を掲げるかについては、別途検討される必要があるが、現行基本計画や啓発活動強調事項に掲げられている人権課題の中には、例えば「子ども」や「女性」、「障害者」など、所管府省庁において、有識者検討会や当事者・関係者のヒアリング等を経て、総合的な施策の計画等が策定され、その中

に、教育・啓発の方向性が示されているものがある。このように既に計画等が策定されている人権課題については、そこで示された教育・啓発に関する理念や方向性を尊重し、基本計画の中にも取り入れていくべきである。

他方で、「部落差別（同和問題）」、「ハンセン病患者・元患者等」のほか、本検討会においても議論した「ヘイトスピーチ」の問題に関しては、現状において、人権教育・啓発に関する理念や方向性を示した計画等が存在していない。そのため、今後基本計画を見直す際に、これらの人権課題に個別に言及するとの方針になった場合には、それぞれの問題状況に応じた人権教育・啓発の方向性について、具体的に検討し、基本計画の中に記載していく必要がある。

3 基本計画の見直しについて

基本計画の見直しに関し、現行の基本計画では、「第5章 計画の推進」の「3 計画のフォローアップ及び見直し」の中で、「我が国の人権をめぐる諸状況や人権教育・啓発の現状及び国民の意識等について把握するよう努めるとともに、国内の社会経済情勢の変化や国際的潮流の動向等に適切に対応するため、必要に応じて本基本計画の見直しを行う」とされており、定期的な見直しを実施する旨の規定は設けられていない。

しかしながら、基本計画で示された人権教育・啓発の方向性について、効果検証を行いつつ、その内容について適宜見直しを行う必要があること、人権教育に関わる学習指導要領や各人権課題に関連する他の計画等の定期的な改訂が見込まれることなどを踏まえると、基本計画についても今後は定期的に見直しを行っていくことが望ましい。

(2024年10月22日)

第19回熊本県ハンセン病問題啓発推進委員会資料

報告：遠藤隆久

ブレディ・ミカコ氏の『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』（新潮社刊：2021年）に見るイギリスの主権者教育のあり方について

《イギリスで行われている主権者教育》

◇ すでに中学生の段階で国語の授業の中で各自が社会問題についてさまざまなテーマを選択して発言をするスピーチコンテストが日常的に行われ、中等教育修了時の全国統一試験（GCSE）の国語に試験にスピーチテストがある。

本書の事例に挙げられている事例は、摂食障害、ドラッグ問題、LGBTQなどを取り上げた生徒たちがいる。

◇ スピーチの書き方には5Sという5つのメソッドがある。

- ・ Situation（聞き手が想像できるようなシーンを設定して議論を深める）
- ・ Strongest（演説の最も重要な主張を提示する）
- ・ Story（個人の経験談を用いて自己の主張を裏付ける）
- ・ Shut down（反論を封じ込める）
- ・ Solution（処方箋を提案する）

◇ イギリスでこうした主権者教育が行われている背景

イギリスは植民地からの流入者だけでなく、旧東欧からの出稼ぎ労働者やアフリカを追われた人々がおり、かつ日本以上の階層差別のまっただ中にあり、好むと好まざるとに拘わらず、子どもとたちはこうした問題と向き合い自ら考える力を持たないと生きていけない環境が目の前にあった。

→ しかし、日本でも国際化と貧富の差は次第に広がりつつあり、かつ目の前の課題として直面しており、すでに無関心でいられない環境にある。

◇ すでに数多くの社会問題に関する著書を著しているブレディ・ミカコ氏に関心させた彼女の一人息子が取り上げたテーマは、何だったか……

【ブレディ・ミカコ氏の略歴】

福岡県福岡市生まれ。貧困家庭出身。日本在住の頃からパンクミュージックに傾倒し、ジョン・ライドン（ジョニー・ロットン）に感化される。1984年福岡県立修猷館高等学校を卒業して上京&渡英。ロンドンやダブリンを転々とし、無一文となって日本に戻ったが、1996年に再び渡英し、ブライトンに住み、ロンドンの日系企業で数年間勤務。その後フリーとなり、翻訳や著述を行う。英国在住は20年を超える。

2017年、『子どもたちの階級闘争』で第16回新潮ドキュメント賞受賞。2018年、同作で第2回大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞候補。2019年、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で第73回毎日出版文化賞特別賞受賞、第2回本屋大賞ノンフィクション本大賞受賞、第7回ブクログ大賞（エッセイ・ノンフィクション部門）受賞、第2回八重洲本大賞、キノベス!2020 第1位、大宅壮一ノンフィクション賞候補
出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』